



日本はすでに4人に1人は65歳以上という高齢社会に突入しています。都市部であっても買物や通院、家の手入れなど、日常生活に支障をきたす高齢者が増えています。じつはこの問題は何十年前も前から予測されていました。私はまだ介護保険制度もなかった30年ほど前に、その後の日本の高齢社会を見通し、栄養学の基礎知識を持つ看護の心得のある専門家を一人でも多く自分の手で育てなければと思いました。そして女子栄養大学に保健栄養学科を設け、養護教諭の養成を始めました。なぜ栄

大で養護教諭を？ とだれもが疑問に思うようですが、食の支援が必要な人に対応するにも、誤った食生活が招く病気を防ぐにも、看護の知識や技術が不可欠です。養護教諭として社会に出た卒業生は学校現場で子どもたちを心身両面から支え、活躍しています。たとえ仕事にはつかないとしても各地に根をおろし、それぞれの場で家庭や地域に食を基本にした人々へのサポートをしてもらいたいです。一人一人の活動が社会をよりよくし、人々を幸せに導く基盤になるものと信じています。

日々の暮らしに

香川芳子 女子栄養大学学長

高齢社会を支える
看護の心得のある人材を
育てたかったです